



キラリと輝く生き方 女性の起業話

WORKING WOMENのススメ

vol.6 終わることはない仕事と母親業。楽しくやっていこう！

石山純恵さん
福島市在住、2児の母。
起業、国際結婚、離婚を経て平成20年に再起業。多言語翻訳と研修立案等の会社「クリフ」を設立。NPO法人Tomorrowに参画し市内3か所の学童保育所を運営。福島の女性起業家として講演や研修を行うほか、子どもから企業管理職までの幅広い人材教育事業に関わる。豊富な経験を生かし多方面で活躍中。25年全国商工会議所女性会連合会第12回女性起業家大賞「最優秀賞」受賞。福島県ベンチャーアワード2013「金賞」受賞。
[問い合わせ]
☎024(531)8120

でも、ひょとす長男は、段落。仕事は新事業が無事に始動できました。仕事を母親業も、終わることはほんの。楽しくやつてこぎたいと、あらためて思つたのでしたゞバ！ 母親業！

今日は久しぶりに、わが家の子育て話をしたいと思います。別の高校に通つ息子たちは2人とも野球部で3年生と1年生。今年の夏は地区大会から県大会そして甲子園。会社では2つの新事業の立ち上げと重なり、私は息切れするような毎日を送つていました。準々決勝の日、結果は残念でしたがが不思議と私の気持ち晴れやかでした。

急いで最終の新幹線に飛び乗つたところ、長男からメールがきました。「いっぱい仕事あんのに今日も甲子園まで応援

う。今まで朝早くから夜遅くまで迷惑かけてごめんな。野球は今日で引退だけど、これからもよろしく。」

たったこれだけですが、うれしくて、うれしくて、頑張ってきて良かったと、いう充足感でいっぱいになりました。「子どもを持つ幸せ」についてこういふことで、私も感じました。毎日が慌ただしく過ぎて、そう感じたが、その日、私とまで考えたかったら、深夜に帰らざるを得ませんが、「明日からまた時、弁当三口」と一緒に現実にしまった次第です。

初めて感じた素直な気持ちと、「今まで続けられたのは周囲の助けがあつたから」だけかもしませんが、

「つたから」と、じつお世話をしたが止まりませんでした。子どもを持つて本当に素晴らしい！そんな気持ちは分かち合える人が増えれば、そんな社会になれば、日本の少子化も改善できることなのでは。子どもを持とうキャンペーンをしたいとまで考えてしまいました。その日、私は感動しながら深夜に帰宅し、見つけてしまった次男からのメモ。「明日から秋の大会、朝5時、弁当ヨロシク」私は一気に現実に引き戻され感動でいっぱいにならなければいけないのです。

でも、ひとまず長男は一段落。仕事は新事業が無事に始動できました。仕事を母親業も、終わることはないもの。楽しくやっていきたいと、あらためて思つたのでしたゞバ！ 母親業！